

オレ流采配

誠に勝手ながら2ヶ月ぶりの執筆となりました。早くも年賀状が届き、町には巨大なクリスマスツリーが現れ、今年も残すところあと2ヶ月をきりました。あっという間に年も明けようとしています。今年の積み残しの課題がないかどうか、今一度点検しようと思うのですが、日々の業務に振り回されて、年が明けると「あー、またこれとアレできなかったなー」と思う姿が目には浮かびます。

さて、プロ野球は中日ドラゴンズの53年ぶりの日本一で幕を閉じました。わが、阪神タイガースは、ペナントレース後半の一番に大失速し、優勝どころか3位に留まり、今年から導入された「クライマックスシリーズ」ではペナントレースの不調をそのまま引きずって、中日に1勝もできずに2連敗でシリーズを終えました。来年は甲子園球場が改装されますので、戦力を強化してのV奪回を大いに願っています。

ところで、日本シリーズの第5戦目での落合監督の「オレ流采配」につき、話題が沸騰しました。問題のシーンは、8回まで中日の山井投手が日本ハム打線をパーフェクト(一人の走者も許していない状態)ピッチングしていたものの、9回の表に抑えのエース岩瀬投手に交代させた。結果、岩瀬投手が日本ハム打線を3人で抑え、日本一を決めたのですが、この投手交代につき、プロ野球ファンの間では、「交代させずにそのまま投げさせて、日本シリーズ初の完全試合を見たかった」という意見と、「この交代は個人の記録よりもチームの勝利を優先した英断だった」という意見とが対立し、賛否両論となりました。

私がたまたま喫茶店で見た新聞記事に、阪急ブレーブス～オリックスを5度のリーグ優勝、3回の日本一に導いた名称上田利治元監督のコメントが載っていたので興味深く読みました。上田氏は自身の日本シリーズでの苦い経験から、落合采配を支持するとの内容でした。

1978年の日本シリーズは阪急対ヤクルトで、阪急が2勝1敗で迎えた西宮球場での第4戦目、9回表5対4の1点差で阪急がリードしていたヤクルトの攻撃時でした。2アウトランナー1塁の時に上田監督は投手交代を決断し、マウンドに駆け寄ったが、捕手から「投げさせてやって下さい」との申し出があり、その後続くように内野手からも同様な申し出があったことから続投に切り替えたものの、次の打者に逆転の2ランホームランを打たれて試合は負けました。普段上田監督は「情が移るから」とのことで、投手交代時はマウンドに駆け寄らずにベンチから審判に告げていました。その時に限って変な間ができ、駆け寄って行ってしまったとのこと。

その負けで2勝2敗の5分となり、ヤクルトにとってはシリーズの流れを変える1勝となって、阪急は日本一を逃すことになりました。ちなみに、このシリーズの最終試合の第7戦目は今も語り継がれている、後樂園球場でのヤクルト大杉選手の打った左翼ポール際の大飛球をめぐって、審判のホームランとの判定に対する上田監督の「あれはファールだ!」との1時間19分にも及ぶ猛抗議がありました。

私が数年前に高校の野球部のOB会に行ったとき、年配の元監督さんの挨拶がありました。「30年以上たった今も心に引っかかっていることがある」から始まって、要約すると、大阪大会での上位を決める大事な試合での出来事で、投手起用について選手からの意見など取り入れて試合前にほぼ決めていたものの若干迷いがあったその時に、スタンドの父兄から「〇〇さん投げさせてあげてー」との声があり、気持ちがブレてしまったとのこと。当初の予定投手ではなく、その〇〇投手に投げさせたものの結果負けてしまいました。恐らく、当初の予定投手で仮に負けたとしても、それは納得したのかも知れませんが、急きょ変更したことが後の後悔につながった気持ちはよくわかります。その元監督さんは当時の仲間が集まる度にそういう話をしているのでしょうか。

指導者にとっては決断が大事で、それを時には非情なまでに貫き通せるかがいかに重要なことか、これらのエピソードからうかがい知れます。特にスポーツでは、その瞬間瞬間の決断が勝負となります。皆さんは落合監督のオレ流采配を支持しますか？